
甘いケーキを召し上がれ

† アラクネ †

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘いケーキを召し上げれ

【Nコード】

N5014B

【作者名】

十アラクネ十

【あらすじ】

ここは貧しく、娯楽も余裕も無いスラム。そんな街で姉が営むのは、甘い甘いケーキ屋さん。一切れ食べたら、誰でも虜。

ここは0211地区・エビスタウン。

はつきり言つて、かなり下層部の貧民街だ。

裕福な0001地区と比べたら、同じ国内にあるとは思えないほどに、貧しくて治安が悪い。

老女が襲われて金品を奪われ、男達は縄張りを争って命を落とし、麻薬中毒者が意味不明な雄叫びを上げて高笑いする、

…そんな街。

そんな環境の中で、僕と七つ年上の姉が営んでいる、小さな店。意外に思われるかもしれないが、それは可愛いらしい、甘い洋菓子のお店だった。

今日も僕は腕に大きな籠を抱え、街の表通りを急いでいる。

籠の中身は、もちろん姉に頼まれたケーキの材料。今日はトッピングに使う、瑞々しいラズベリーとミントの葉だ。

小走りに駆けていく僕に、街の人達が親しげに声をかけてきてくれる。

「やあ、ケーキ屋の坊主。今日も姉ちゃんの手伝いかい」

「気をつけてねえ」

「午後一番に買いに行くから、宜しく言つていてね」

姉の作る甘い甘いケーキは、みんなを幸せにしてくれる。

たとえばほんの一時ではあっても…

日々の不安。忙しさ。惨めな気持ち。余裕の無い暮らし。

貧民街特有のそんな陰鬱な空気を払い、明るいい心を取り戻させてくれる、不思議な、優しい、甘い魔法…。

「ああ、ケーキ屋の坊やじゃないの！」

いきなり強く腕を掴まれ、僕は驚いて足を止めた。

籠からラズベリーの粒が零れ、渴いたアスファルトの上を散り散りに転がっていく。

「あ…。嫌だ、ごめんなさいねえ、あたしったらつい…」

慌てる中年女性を気遣い、僕は邪気の無い笑顔を浮かべてみせる。

「大丈夫ですよ、婦人」

彼女は寂し気な目元を細めて、僅かな微笑みを返した。

「リタ婦人でしたよね。息子さんの具合はいかがですか？」

彼女は今年13才になる男の子の母親で、半年くらい前からたまに姉の店に来てくれている、酒場の女将だった。

以前は明るかった顔に曇りがかかるようになったのは、大切な一人息子が麻薬中毒に陥ってしまっただけである。

「一時期、何も食べ物を受け付けなくなってしまっただけだ。中毒の末期だ、もうどうにもならないって皆から言われたのだけど」

伏せられた睫毛は、毎日流す涙が染みたせいか、重そうにしながられている。

「この間、久しぶりに坊やのお店のケーキを買って帰ったらね。嘘みたいに夢中で食べてくれて……」

婦人は顔を笑みの形に整えながらも、両目からボロボロと涙を流した。

「まるで麻薬になんて縁の無かった頃の、昔のあの子を見るようで……」

無理な明るさを保とうとする彼女の目は、くすんだ悲しい諦めの色。

「…ありがとうって…お姉様に、伝えてね。あの子はきっともう長くはないけど……、本当に、坊やのお店のお菓子が、好きだったから」

切なく寂しい嗚咽の中、彼女は途切れ途切れに礼の言葉を繰り返

す。

姉の作る、甘いケーキ。

病んだ者の心すらも掴んでしまつ、優しい、口当たりのいい、柔らかな夢。

一度口にしたら、また求めずには、いられない。

カランカラン…

勢い良く扉を開くと、レトロなベルが聞き慣れたリズムを奏でた。
「ただいま、姉さん！」

ずらりと並んだスポンジにクリームを絞っていた姉が、腰まである巻き毛を揺らしてふんわりと振り返った。

薔薇色の頬と唇、飴掛けした果実のように潤った瞳、天使そのものの輝く笑顔が僕を捉らえた。

「お帰りなさい。午後の予約も一杯よ」

僕は頷き、綺麗に乗せられたクリームの上に、早速新鮮な実と葉を飾り始める。

明るい午後の陽射しに照らされ、姉はそんな僕の頭を優しく撫でてくれる。

甘い、美味しい、出来立てピカピカのクリームケーキ。

飾りまで済まされたケーキの上に、姉は丁寧に最後の仕上げを施す。

サラサラと散らされる真っ白な装飾。

それは粉砂糖ではなく、悪夢を呼ぶ強い麻薬の滑らかな粉。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5014b/>

甘いケーキを召し上げれ

2011年1月20日14時59分発行